

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育相談 第126号

- 小, 中, 高, 特別支援学校対象 -
平成20年10月発行

望ましい集団づくりを目指すグループ活動の在り方

情報化や核家族化, 少子化など, 社会や家庭の変化に伴い, 児童生徒を取り巻く環境は大きく変化してきている。こうした中, 児童生徒の人間関係にも, 小集団化や交流の希薄化, 孤立化の状況が見られる。

このような人間関係の中で, グループ間あるいはグループ内のトラブルをきっかけとして, いじめや不登校など様々な不適応行動につながることも多く, 学校生活における児童生徒のグループ活動の充実を図ることが求められている。

そこで, 本稿では, 不適応行動の未然防止に向けた「望ましい集団づくりを目指すグループ活動の在り方」について述べる。

1 現状および課題

平成18年度に当教育センターでは児童生徒を対象に「学校生活や悩みに関する実態調査」(調査対象: 小5~高1, 合計3,175人)を実施した。

「仲のよい友達に嫌われないように気を遣う」という項目に対しては, 約半数の児童生徒が「よくある」, 「時々ある」と回答している(図1)。

また, 「学校生活で不安を感じる原

因」として, いずれの学年においても, 「友達との関係」を上位にあげている(図2)。

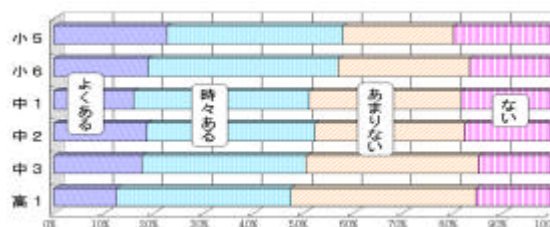


図1 仲のよい友達に嫌われないように気を遣う

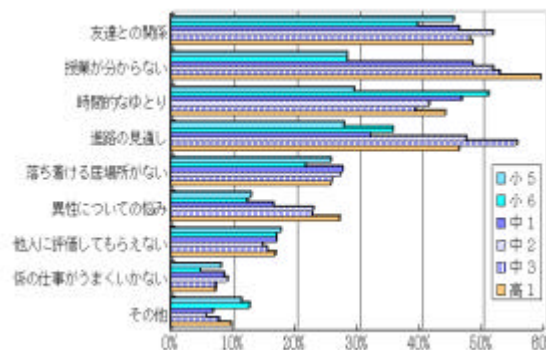


図2 学校生活で不安を感じる原因

さらに, 「自分の意見を言ったら仲間はずれにされそう」, 「友達の考えに無理に合わしている」など, 自分の友人関係への疑問や不安に関する当教育センターへの相談も少なくない。このことから, 友達との関係に困っている児童生徒の様子がうかがえる。

そこで, 教師には, 児童生徒の人間関

係の希薄化が進む中で、学級集団をはじめ、部活動や委員会活動など、児童生徒の所属する様々な集団において、互いに心がふれあい、認め合う人間関係づくりを構築するグループ活動の工夫が求められている。

2 望ましい集団とグループ活動

(1) 望ましい集団とは

望ましい集団とは、児童生徒一人一人に、集団の中でよりよい人間関係を自主的に築こうとする態度があり、またその中で自己が生かされる集団である。

そのような望ましい集団こそが、児童生徒の学習意欲を高めたり、生き方について深く考えることを促したりするなど、すべての児童生徒の「生きる力」をはぐくむ基盤になると考える。

しかしながら、学校生活における集団には、学級や部活動などの数十人の単位のものから2～5人程度の友達の集団にいたるまで様々な集団があり、大きな集団になればなるほど、集団全体において、一人一人が意見を述べたり役割を果たしたりするなどの活動が少なくなる傾向がある。

(2) グループ活動とは

ここで述べるグループ活動とは、上記の傾向に対応する手段としてのグループ活動であり、ある集団の中にグループ（小集団）を構成し、一人一人が意見を述べたり役割を果たしたりする機会を増やし、児童生徒一人一人の

「集団の中の一員」という意識をはぐくむことで、望ましい集団づくりを促すものである。

3 望ましい集団づくりを目指すグループ活動の視点及び具体的対応と留意点

望ましい集団づくりを目指すグループ活動は、児童生徒の自発性にゆだねるものではなく、教師がその活動に対してリーダーシップを発揮し、積極的にかかわることが大切である。

教師がリーダーシップを発揮しながら進めるグループ活動の視点及び具体的対応と留意点について次に述べる。

(1) グループ活動における視点

「目標の設定」について

周囲の思いに気付き、課題や問題の意識をもつなど、活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通に理解できているか。

「方法・手段の決定」について

活動の目標を達成するための方法や手段などを考え、それに向けて協力して実践しているか。

「一人一人の分担と実施」について

一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通理解しているか。

「相互の認め合い」について

相互の考えや意見が認められるなど、一人一人の自発的要求が尊重され、お互いの心理的な結びつきが形成されているか。

「所属感・連帯感等」について

成員相互の間に所属感や連帯感、所属意識や連帯意識があるか。

「相互の尊重」について

相手を尊重し、支えていく態度や行動をとるなど、成員の中で、自由な相互関係が助長されるようになっているか。

(2) 具体的対応と留意事項

グループ活動の目標に関して

目的や目標があってはじめて考え方や活動の方向性が定まる。

児童生徒の達成感や自尊感情を高めるために、特に中学校や高等学校においては、「自己決定」や「自己責任」の観念を取り入れるなどの工夫が望ましい。

グループ活動の規範（ルール）に関して

規範づくりは意図的に繰り返し行うことが大切であり、その際、児童生徒の考えを取り入れるなど、合意を得ながら進めることが大切である。

グループの中で積極的な発言をしやすくするには、意見に対して、批判的、反発的な言動をしないなどのルールが必要である。

アサーショントレーニング等の事前指導も効果的である。

一人一人の役割に関して

集団の中に自分の役割があることで、児童生徒は自分の存在を意識できる。様々な役割を経験させ、その活動に対する肯定的な評価が大切である。

また、それぞれの役割のもとで、目標を達成したとき、協働の大切さに気付かせたり、共に喜びを共有することのすばらしさなどについて感じさせたりする。

感情の交流を図ることにに関して

児童生徒それぞれが、自分の心を開き自分の考えを述べることができ、そしてそれらを受け入れてくれる集団の雰囲気大切である。構成的グループエンカウターのエクササイズを活用するなどして、心と心のふれあいを深めさせる。

4 グループ活動の実際

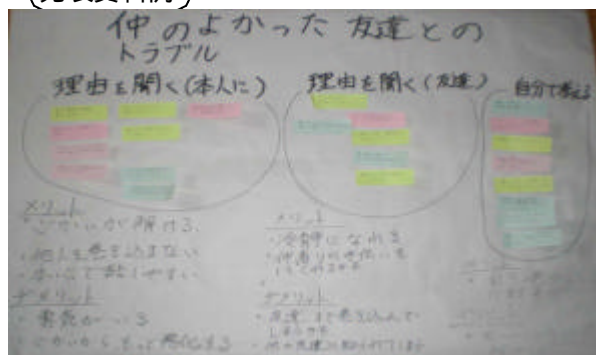
次に示すのは、中学校第2学年における「(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること」に関する学級活動の展開例である。

指導目標：グループ活動を通して、人間関係上のトラブルの解決法を身に付ける。

過程	主な指導の流れ	具体的対応・留意事項等
導入 5分	<p>1 本時の動機付けをしてねらいを決める 人間関係上のトラブルは「解決策として何があるか」を考えることが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人は誰でも少なからず悩みを抱えている。 1つの相談内容をみんなで受け止めて、解決策について検討していくことを伝える。 <p>ねらい：友達とのトラブルの解決策を考えよう。</p>	<p>本時のグループ活動の目標を全員に共通理解させる。</p> <p>人間は社会生活を営む中で、様々な人間関係上のトラブルと遭遇するが、トラブルを避けるだけでなく、その解決策を考えることの大切さに気付かせる。</p>
展開 40分	<p>2 相談内容（事例）の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 5～6人のグループをつくる。 グループの中から、質問者2人を決める。 相談内容をよく聞き、不明の点は質問者が質問することを伝える。 教師が相談内容について発表する。 <p>【事例】</p> <p>クラスメイトの一人が自分に対して腹を立て、自分を避けているように感じられます。自分にはその理由が分かりません。その人とは、あまり親しい仲ではありませんが、放っておくとクラスの雰囲気が悪くなりそうです。どうしたらよいでしょうか。</p>	<p>質問者を選ぶ際は、これまでの活動と重複しないよう配慮し、役割を意識させる。</p> <p>相談内容によっては、グループワークに必要な時間も変わってくる。時間配分を考えながら実施する。</p> <p>相談内容は、フィクションでしか実際によくありそうだと思うことを取り上げる。多数の生徒の前で実際の悩みを用いると秘密が保護できない場合もあるので実際例は避ける。</p>

展 開 40 分	3 発表内容についての質問 ・ 発表を聞き、解決策を考えるためにさらに必要な情報が ないか、グループで話し合う。 ・ 各グループの質問者が順番に質問する。	グループ内で出された質問に対して否定的な発言がないよう注意 する。
	4 個人で解決策について考える ・ 配布してある付箋紙に自分が考えた解決策を記入する。 付箋紙 1 枚につき 1 案。 ・ できるだけ多くのアイデアを出す。	多くのアイデアを考えること の大切さ、誰にも非難されない、 非難しないというルールを伝え る。
	5 グループで解決策を考え合う ・ 配布された模造紙に、各自が今書いた付箋紙を、グループ で話し合い分類しながらはり付けていく。 KJ法の要領で分類していく。 ・ 分類した付箋紙ごとにタイトルを付ける。 ・ 各分類された解決策を実行したときのメリット(いい点) とデメリット(心配される点)を考えサインペンで模造紙に 記入する。 ・ 最後に解決策のベスト3を話し合っ て決める。	出されたアイデアは、すべて いづれかに分類しはり付ける。 出されたアイデアが尊重され るよう、批判的な評価はせず、グ ループ内での肯定的な評価がされ るよう促す。
	6 解決策の発表 ・ 各グループごとに、話し合った解決策について発表する。 【発表の流れ】 最初に、解決策としてどのようなものがあ げられたか、分類ごとに簡単に説明する。 次にデメリットについて簡単に説明する。 最後に、グループとしてのお薦めの解決策 を、理由も添えて発表する。	グループの発表が終わったら、 全員で拍手するなど、受容的な雰 囲気づくりを心がける。
終 末 5 分	7 まとめ ・ 振り返りシートに記入させる。 ・ みんなで話し合うことで多くの解決策が見つかるが、それ ぞれメリット、デメリットもあり、そこまで検討しておく と選びやすくなる。解決策も、人によって異なることもあり、 自分に合った適切な解決策を選択することが大切であるとい うことを伝える。	グループ活動の視点から、本日 の活動中で、一人一人のよさやグ ループ発表のよさ、次の課題など をフィードバックし、全員の共通 理解を図る。

発表資料例



以前の児童生徒は、地域の友達との遊びなどの体験を通して、自然に周りの人との人間関係について学び、そうした集団の中で自分の役割や責任、他者への思いやりなど対人

関係のスキルを身に付けてきた。

そのような経験が乏しくなってきた現在、学校においては、児童生徒の所属する様々な集団に対して、児童生徒の集団活動の意義を踏まえ、望ましい集団へと導くために、意図的、積極的なグループ活動を進めていくことが大切である。

〔引用・参考文献〕
指導と評価「人間関係力を高める」2006年10月号図書文化
森川澄男監修「すぐに始められるピア・サポート」2002年
ほんの森出版

(教育相談課)